

案内絵ハガキから見た貴重書展示会のイメージ（6）

## 『日本で知られたドイツの世界』

西尾 怜子



皆さん、こんにちは。突然ですが、皆さんは図書館に絵はがきが表示されているのをご存じですか？ご存じでなかったら、是非、簡単にご説明しているこのコーナーに立ち寄ってみてください。

宜しいですか？それでは！まず、先程お話した絵はがきですが、これは今まで本学の図書館が主催してきた展示会の案内絵はがきのことです。検索コーナーの近くに「図書館稀覯書展案内葉書コレクション」と書かれた額が飾られているので、すぐに見つかると思います。絵はがきだけでなく、目録も隣に置いてあり、こちらはホームページからも読むことができる優れものです。お暇なときに覗いてみてくださいね。この絵はがきの中から1つ選んで、今回は『日本で知られたドイツの世界』についてお話をしていきたいと思います。

さて、ドイツと言えば、ビールにじゃがいも、ソーセージ！だと思いますが、実は食べ物だけではありません。彼らの興味の対象は幅広く、特に宗教改革以降からは目覚ましいものがありました。それは宗教だけではなく、印刷、科学、文学、そして異国の文化へと手を伸ばし、世界に大きな影響を与えてきました。その様々な歴史の欠片が2005年に展示され、今でも特別展示として見ることができます。

このドイツの世界から3つお勧めを出すならば、まずはアピアヌスの『宇宙学』を提示します。ドイツの数学、天文、地理学者だったペトルス・アピアヌス。1520年よりマルティン・ヴァルトゼーミュラーの本を基に著作物を刊行し、1530年にはハート型投影法による世界地図などを作成した彼は、精密な計算によって地理学の発展を築き上げてきました。この本は現在のベルギーで発行された増補版ですが、この時代から地球の外に地球と同じような世界があるのだ

と確信した当時の人々の想像力と分析力を標題紙の絵と一緒に知ることができます。

2つ目はゲーテ作『ファウスト断片』です。革のケースに収められているこの初版本は夏休みのオープン・キャンパスの特別展示会にも展示されました。悪魔に魂を渡す代わりに若さと青春を手に入れるファウスト博士。『ファウスト』を研究する人にとっては必要不可欠な文学作品の1つです。



そして最後は、ハイネの『世界周航、日本への旅』。革命を計画したことによってアメリカに亡命したヴィルヘルム・ハイネはペリーと共に日本に行き、日本を最後まで好意的に見ていたドイツ人です。彼は「活気に満ちた知性豊かな民族」、「儀式と作法とが生活の重要部分を占める民族」、「勤勉」という表現を多く残しました。もしかしたら、彼の言葉が日本人の特徴を表すきっかけになったのかもしれませんが。

さてさて、たった3冊しか紹介しませんでした。そこに秘められた知識や思いにワクワクしませんでしたか？もし、そんな好奇心に掻き立てられたなら、是非、本学の図書館へ！皆さんがいらっしゃるのを楽しみにお待ちしております！！

にしお れいこ（日本語学科4年次生）